

～国道123号から常磐道に!!～ 水戸北スマートIC社会実験が始まります

9月25日から、常磐道と国道123号との交差点でスマートIC（ETC車専用インターチェンジ）の社会実験が開始されます。これにより、常磐道への利用が大変便利になります。

○水戸北スマートIC社会実験について

常磐道と国道123号が交差する箇所（水戸市飯富町）にETC車専用の出入口が設置されます。

※ETC車載器を搭載していない車両は通行できません。

◇実施期間 9月25日（月）午後3時～（一般車両）
～平成19年3月31日（土）

◇対象車種 全車種（けん引車・二輪車は除きます）

◇実施時間 24時間通行可能

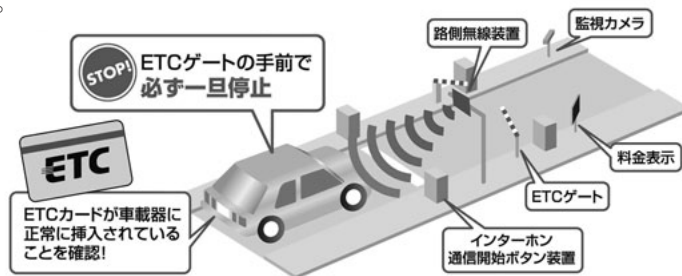
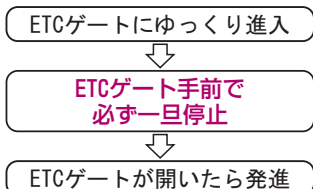
◇運用形態 東京方面乗り降り限定（いわき方面へは乗り降りできません。）

◇ご利用上の注意 ノンストップ型ETCではありません。ゲート前で必ず一旦停止して下さい。

水戸北スマートIC拡大図



スマートICのご利用方法



問い合わせ先 市役所 建設課 ☎52-1111（内線223～225） 県庁 道路建設課高速道路対策室 ☎029-301-4439（直）

7月20日から8月20日まで「夏の交通安全防止県民運動」が実施され、山方地域でも運動の一環として、7月27日に国道118号上で街頭キャンペーンを実施しました。

当日は、大宮警察署をはじめ交通安全協会山方支部及び交通安全母の会山方支部など関係団体の協力のもと、ドライバー一人ひとりに安全運転への注意を呼びかけました。



山方地域で交通安全キャンペーン

マナーアップ！スピードダウン！

知市ってニュース！

このコーナーでは、常陸大宮市のさまざまな出来事や話題を紹介します。皆さんからの身近な情報をお待ちしています。どうぞお気軽に情報をお寄せください。

★情報政策課広報統計係

☎ 52-1111（内線383）

FAX 53-6010

e-mail

jousei@city.hitachiomiya.lg.jp



美和地域交通安全映画会

8月9、10日、宿里ふるさとコミュニティセンター及び美和工芸ふれあいセンターにおいて夏休み期間中の子どもたちの交通安全防止と、青少年の健全育成や住みよい地域づくりをめざし、美和地区交通安全母の会主催による交通安全映画会が開催されました。

当日は、市交通指導員による反射材を利用した交通安全についてや、不審者からの身の守り方などの話もあり、参加した小学生や保護者は熱心に耳を傾け、楽しく学びました。

社会を明るくする 運動市民の集い



7月29日、おみやコミュニティセンターにおいて、犯罪や非行のない明るい社会を築くために、第56回社会を明るくする運動の一環として市民の集いを開催しました。

集いは、那珂地区保護司会（会長 海老根欣平）の呼びかけに、那珂地区更生保護女性会・青少年育成市民会議・青少年相談委員会・連合民生委員児童委員協議会の団体が賛同し、「社会を明るくする運動」常陸大宮市実施委員会（委員長 矢数浩）を設置し開いたものです。

集いでは、水戸保護観察所観察課長 永山正明氏から「子どもの心、親知らず」と題し、スポーツ少年団のコーチを通して、子どもとの関わり方の大切さの講話があり、また、非行少年への周囲の接し方が彼の人生をどう変えていくかを描いたビデオ「二つの道」が上映されました。

青少年関係団体をはじめ、参加した多くの方々は、熱心に聞き入っていました。

いつまでもきれいな自分の歯で

むし歯予防教室

むし歯は3歳を過ぎたところから急増しますが、5、6歳ごろは永久歯も生えてくる大切な時期。そこで市では、4月から6月に市内の幼稚園・保育園で園児や保護者を対象に、むし歯予防教室を開催しました。

まず、保育士による手づくりの紙芝居や寸劇で歯についての興味を引き出しました。その後、歯科衛生士が子どもたちの歯の汚れをチェック。ブラッシングの方法を学び、園児たちは真剣に歯を磨いていました。

しかし、親の仕上げ磨きが必要です。9歳ごろまではお父さんお母さんもがんばって磨いてあげましょう。それでもむし歯ができてしまったら、早く治療しましょう。子どものむし歯は思ったより進んでいます。家族みんなで歯を大切にしていきましょう。



小児生活習慣病 予防教室



食生活の変化や多様化による生活習慣病は、大人ばかりでなく偏食や甘いお菓子などを食べ続けている子どもたちにも増えています。そのため、市では担任及び養護教諭・給食担当栄養士・保健師のメンバーで小学4年及び中学2年生を対象に小児生活習慣病予防教室を実施しています。

教室では、食べた物が身体の中でどのように吸収されるかを学び、食品ピラミッドを見ながら今日の給食について考えてみました。また、一日に必要な野菜の量を実際に計測。児童はその量に驚くと同時に、野菜をあまり食べていないことにも気付いたようです。

（小場小児童のお母さんの感想）

毎日の食生活が子ども達のこれからの生活にとっても大切なことが分かりました。

日頃、何気なく食べさせたり飲ませているもの、それが体の為に良いものかどうか見直さなければいけないと思いました。好き嫌いをなく食べられるように工夫して、食生活に気を付けたいと思います。

親子クッキング

これは、市内の幼稚園・保育園に通っている年長児と保護者を対象に平成18年度から実施している事業です。

子どもたちはエプロンを付けパンダナをかぶり、目を輝かせて調味料を混ぜたり、食品を洗ったり、フライパンで炒めたり、慣れない手つきで盛り付けをしています。保護者の大半は仕事を持っているお母さんです。お母さんも家ではつい忙しく、子どもと一緒に料理をすることが少ないようですが、「これを機会に一緒に料理をしてみよう」という声が聞かれています。

食することは生きる上での基本です。様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できるようになることが必要です。今後も、管理栄養士と地域の食生活改善推進員さんは「食」に対する応援をしていきます。

